

独立行政法人
地域医療機能推進機構 (JCHO) 熊本総合病院だより

ぱとす



第54号
2026年
秋号

Volume 14 Number 4 October 2026

復旧から復興へ向かって熊本総合病院 再始動



病院長あいさつ

「令和8年熊本地震の直撃」と「皆様方の格別のご支援」

日本は今年も長い厳しい暑さが続きました。10月になりやっと朝夕の涼しさで秋が感じられるようになりましたが、皆様方におかれましてはご清祥のことと拝察申し上げます。

本当に、この度の「令和8年熊本地震」の八代地域への直撃に腰を抜かしております。10年前に「平成28年熊本地震」がございましたので、少なくともあと100年は大丈夫と高を括っておりましたら、この「令和8年熊本地震」の直撃で、建物自体は何とか大丈夫でございましたが、手術室の映像の通り、病院内部は滅茶苦茶になりました。

ところが嬉しいことに、全職員がしっかりしておりまして、被災後丁度1週間で通常診療を行っております。これには私も鼻を高くしております。

地震当日の7月28日16時27分、私は会議中でした。突然とんでもない揺れが会議室を襲い職員の1名が倒れてきた重い本棚の下敷きになりましたが周囲の助けで軽い怪我に留まりました。

実は、私は10年前の「平成28年熊本地震」の前震後2日目の夜、熊本市の自宅にガスなどの異常がないか確かめに一寸戻った4月16日の午前1時25分に震度6強の本震に遭遇しました。その時の振動は正にシェイカーの中にあるようなものでしたが、今回の地震はその時と同じ震度6強と発表されているものの、どう考えても今回の揺れはその時と同等と言えず間違いなく震度7はあったと確信するものでした。

その手術室における映像は、「熊本総合病院の医師を始めとする手術室スタッフが一人として逃げずに患者さんを身を持って守ろうとする高貴な行動の映像」として拡散され、日本は勿論の事、英国BBC、米国ABCなど世界中で放送され、何億人もの人々の称賛を得たと報道されました。



病院長 島田 信也

そして、手術室に留まらず、当院の全職員が発災時から今日までそれぞれの役割を立派に果たしてくれていることを誇りに思っております。

また、被災後はJCHO九州地区病院を始めとする沢山の方々からご懇篤なお見舞いのご支援を頂きまして、心から深く感謝申し上げたいと存じます。誠に有難うございました。

特に、9月30日には、天皇皇后両陛下には八代市をご訪問賜り沢山の被災者にお見舞いを頂きましたが、光栄にも小職にも拝謁を賜りまして、熊本総合病院の手術室の映像もご覧になられたそうで、当院の全職員に対しまして格別のねぎらいのお言葉を頂戴致しまして深く感動致しました。

また、10月2日には、日本のナンバーワンのエンターテイナーのコロッケさんが、何と有り難いことにチャリティーで「熊本総合病院の患者さんならびに職員の慰問」を開催して頂き、当院の北館5階の大ホールは500人の観客で埋め尽くされ、17時から18時の予定が20分も延長するほど盛り上がり、被災後の暗い気持ちが一転清々しい大爆笑に変わりました。コロッケさんの深い思いやりにもまた深く感動致しました。

以上の通り、わたくし共の熊本総合病院は、皆様のご支援と職員の努力によりまして通常の診療に戻ることができましたが、まだまだ1つ1つ復旧していかなければならない内部がございます。しかしながらこの様な時こそ、全職員が一丸となって、「医療とともに、公に一肌脱ぎ」ながら「医療のみならずまちづくりにも貢献する」意気込みで、さらに精進して参ります。今後とも、皆さま方の格別のご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

令和8年 10月吉日

天皇皇后両陛下の拝謁を賜って

令和8年熊本地震の被災地のお見舞いのため、9月30日、天皇皇后両陛下が熊本県をご訪問されました。両陛下は、八代市、氷川町、宇城市を訪問され、被災された方々へのお見舞いと、復旧・復興に尽力する関係者へのねぎらいのお言葉をかけられました。

ご訪問に際し、災害対応にあたった代表者と当院からは島田信也病院長が拝謁を賜りました。懇談の中で島田病院長からは、地震発生時、当院では手術中の患者さんの安全を守るため、医師や看護師をはじめとする職員が懸命に対応したこと、また、その際の手術室の様子を記録した映像が世界中から大きな反響をいただいたことなどについて、ご説明申し上げました。

光栄至極にも映像をご覧になっていた両陛下は、当時の状況について熱心に耳を傾けられ、病院長の話にうなずかれながら、医療現場で地震に立ち向かった職員を温かくねぎらってくださいました。

未曾有の災害の中で、患者さんの命を守るために職員一人ひとりが力を尽くした経験は、私たちにとって決して忘れることのできないものです。

今回、両陛下から温かいお気持ちを寄せていただいたことは、職員にとって大きな励みとなりました。

これからも私たちは、地域の皆さまに寄り添い、いかなる時にも必要とされる医療を提供できる病院であり続けられるよう、職員一同、力を合わせてまいります。

なお、当日の様子はNHKニュースで放送され、NHKウェブサイト (<https://news.web.nhk/news/web/na/nb-5000031045>) でも紹介されています。

当院ホームページまたはXでも是非ご覧ください。



天皇皇后両陛下にご報告する島田病院長
(NHKニュースの放送映像より)

熊本地震復興応援特別イベント ～コロッケさんによるチャリティーショーの開催～

10月2日当院で、熊本県出身のタレント・コロッケさんがサプライズでチャリティーショーを開催して下さいました。

7月に発生した熊本地震では、当院も大きな揺れに見舞われ、現在も復旧・復興に向けた取り組みが続く中、今回のチャリティーショーは、コロッケさんの患者さんや職員に少しでも元気を届けたいとの温かい思いによるものです。

会場には、入院患者さんや病院関係者など約500人で溢れかえりました。

司会はタレント・英太郎さんで会場を盛り上げてくださり、さらに、「ナニコレ？劇団」さんによる楽しいパフォーマンスも披露され、いよいよコロッケさんが登場すると、会場からは大きな拍手と歓声が沸き起こりました。また、最後に小野泰輔八代市長よりご挨拶をいただき、病院長より今回のイベントを主導してくださったコロッケさんへ感謝の気持ちを込めて、感謝状と「熊本総合病院特別終身人間ドック手形」を贈呈いたしました。

今回の慰問を通して届けていただいた「笑顔」と「元気」を胸に、職員一同、これからも地域の皆さまに愛される病院を目指し、一歩ずつ歩んでまいります。

コロッケさん、英太郎さん、ナニコレ？劇団さん、そして今回のイベントにご尽力いただいた関係者の皆さま、心温まるひとときを本当にありがとうございました。



サプライズ登場のコロッケさん



司会の英太郎さん



感謝状の贈呈



小野泰輔八代市長ご挨拶



大盛況となった会場



ナニコレ？劇団さん

患者さんファースト

麻酔科部長 谷本 宏成

この度の熊本地震では八代地区も大変な被害がありました。犠牲になられた方、被災され今なお不自由な暮らしをされている方々に、心からのお悔やみとお見舞いを申し上げます。

当院も例外ではなく大変な被害に遭いましたが、**発災の瞬間から各部署のスタッフは懸命に対応しました。**私からは、**その時の中央手術センターの状況**についてお話いたします。

7月28日夕方、中央手術センターでは4名の患者さんの手術が行われており、そのうち1名は外科の緊急開腹手術でした。16時27分、全ての意識を釘付けにする突然の不吉な細かい縦揺れから、空間がねじ曲がるほどの暴力的な横揺れが手術室を襲いました。その瞬間の様子が、手術室内のビデオカメラに記録されていました。この映像は8月5日の外来再開日に各種メディアに公開され、世界中で大きな反響を呼んだと聞いております。（表紙に掲載）

細かな縦揺れが始まるやいなや、外科医は術野から視線を上げ、周囲に注意を払います。同時に、直接・間接介助看護師は避難経路を確保するため走り出し手術室のドアを開放、麻酔科医も患者さんの頭部と呼吸を守るため、覆いの中に手を差し伸べます。直後、激しい横揺れが手術室を襲います。

外科医は患者さんと術野を守るため、とっさに身を覆い被せます。天井から吊り下げられた无影灯や医療機器が激しく揺れ、スタッフ自身も危険にさらされます。避難経路を確保した看護師は吹き飛ばされます。それでも患者さんのもとへ駆けつけようとしますが、電源が喪失して視界を失い、さらに首に配線ケーブルが巻き付き、身動きが取れなくなります。

揺れがおさまると、状況を素早く把握し手術再開へ向けてスタッフが動き始めます。**電源を喪失した中での作業は困難を極めました、次々とスタッフが駆けつけ、速やかに手術を再開し、余震が続く中、無事に全4件の手術を終えることができました。**

外科医をはじめ、手術室スタッフ一人ひとりの行動を誇りに思うと同時に、過酷な状況の中でも患者さんの安全を守り抜くことができたことに安堵いたしました。

今後も安心して手術を受けていただけるよう、我々手術室スタッフは研鑽を続けてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。



同時に行われていた別の手術室の様子

熊本地震における災害対策本部の対応

副院長兼外科部長 堀野 敬

令和8年7月28日午後4時27分 一日の業務の終わりが見えた頃、突然これまでに経験したことのない激しい揺れにみまわれ令和8年熊本地震が発災。直後に**災害対策本部**が立ち上がり我々の長い一日が始まりました。

マニュアルに従い**トリアージエリアを設定し人員を配置し発災直後から主に外傷患者の救急受け入れを始めました。**日勤のスタッフがまだ帰宅していなかったこともありある程度の人数は確保できましたが、ライフラインの寸断によってレントゲン、CTを含めた検査機器が動かず、電子カルテも使用できないため**トリアージタグを用いての急患対応**を余儀なくされました。特に非常電源まで落ちてしまった数時間は携帯ライトのみで縫合処置等の一次処置を行わなければならず大変でした。

開放骨折など手術室での緊急処置が必要な患者は熊本市内の基幹病院に転送するしかありませんでしたが八代管内の救急車の絶対数が不足しており移送待ちの重傷患者が最大16名まで達したところで何とか**夜間飛行の可能な自衛隊ヘリ**が稼働し始め（深夜2時）、**全国から駆けつけて貰ったDMAT隊の応援**もあり翌日の昼過ぎには当院入院分の搬送も含めた転院待ちがスムーズに捌け始め何とか胸を撫で下ろすことができました。

各トリアージブース配置ドクターを始めとした全スタッフの夜を徹しての活躍は目覚ましく、発災二日で300名を超える急患に対応しており当院の底力を芯から実感することができました。当初から**急患を断らず全てを受け入れて対処することができたことは八代市民にとって何よりも心強かった**と思いますし、**“身を挺して八代市民の命を守った”**と胸を張れる筈です。皆さん本当にお疲れ様でした。



DMAT隊の応援



多職種によるカンファレンス

こんにちは赤ちゃん

ご出産おめでとうございます



これからの日々が、笑顔いっぱいの毎日になりますように。

健康管理センターだより

令和8年熊本地震に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。
一日も早く平穏な日常が回復することを、切に願っております。

■ 震災後も健康診断を欠かさないことが大切です

大きな災害の後には、ストレスや生活環境の変化により、血圧や血糖値などの数値が悪化しやすい傾向があることが分かっています。受診が遅れることで、生活習慣病やがんなどの早期発見が遅れるリスクもあります。**ご自身の健康状態を確認するためにも、早期の健康診断受診をお勧めします。**

■ 健康診断の再開について

8月10日より健康診断業務を再開しております。

休止期間の影響により予約が集中しており、しばらくの間は混雑が予想されます。できる限り受診者様のご要望に沿えるよう努めてまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いします。

■ 1泊ドックの運用変更について

これまで宿泊を伴っていた1泊ドックは、現在「**2日間かけて通院する形式**」に変更しております。

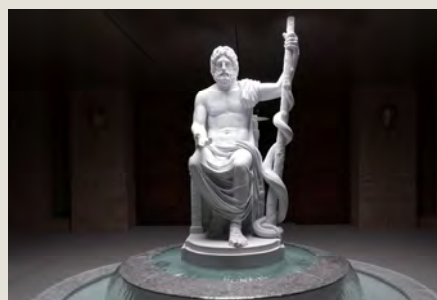
■ レストランについて

フレンチレストラン「ル・シエール」は現在休業中です。再開までご不便をおかけしますが、何卒ご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

健康管理センター長 川崎 修二



震災直後の事務室内



アスクレピオス像には傷一つありませんでした

駐車場のご利用について

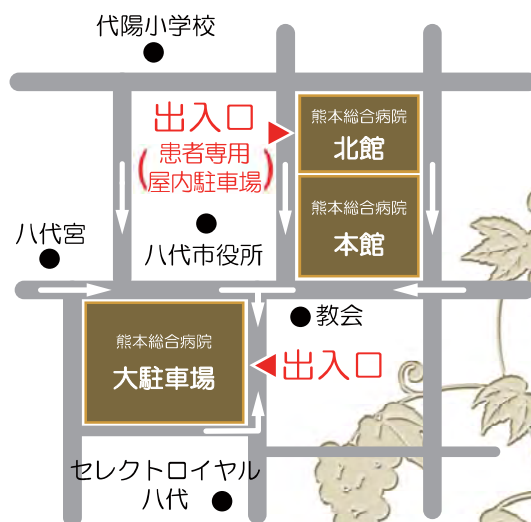
患者専用駐車場

熊本総合病院北館1階に**患者専用駐車場**をご用意しております。屋内の駐車場です。天候に左右されずご利用いただけます。**無料**ですが、**認証が必要です**。

大駐車場

基本的に**無料**ですが、平日は当院による**認証が必要**となっております。**土日祝日は市街地活性化のために認証不要**です。

22時以降の駐車はできません。(以降は高額の駐車料となります)



電話 0965-32-7111(代表)

FAX 0965-32-2772

URL <https://kumamoto.jcho.go.jp/>

発行日: 令和8年10月20日

発行責任者: 病院長 島田 信也



JCHO 熊本総合病院

〒866-8660 熊本県八代市通町10番10号

